

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した、主な取組事例

【平成 22 年度】

学外委員からの意見等	対応措置・取組事例等
<p>■教育・研究について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学は初年度教育がポイントである。 ・学習の選択の幅を柔軟に用意する必要がある。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当理事の下に教育戦略全般を企画立案、推進する専門の部署として教育企画室を設置した。 ・教育企画室において、「カリキュラム改革の基本方針」をとりまとめ、実用英語、未修外国語等の改革案について、大学教育センターでの検討を開始した。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自分の将来を考え地域とのかかわりを経験することがキャリア教育として大切である。(第2回会議) ・保護者の関心は就職であり、企業との連携強化が必要である。(第5回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 12 月に学生支援センターを新設し、「学習支援・キャリアサポート部門」を設け、特任教員を配置したほか、大学教育センターに「キャリアデザイン・FD部門」を設け、両部門で連携し、キャリアデザイン教育及びインターンシップ等の実施体制の見直しを図った。
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト研究の成果が十分に発揮されるためにも、プロジェクトリーダー及び組織が必要ではないか。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究担当理事の下に研究戦略全般を企画立案、推進する専門の部署として研究企画室を設置した。 ・本学における研究等において、先駆的・先導的役割を担う研究者に「卓越研究者」の称号を授与する制度の導入を検討し、平成 23 年度に導入することを決定した。
<p>■予算・施設整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長や学部長の考え・個性が出せる予算配分にすべきである。(第1回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学長裁量経費において、従来の部局等活性化特別経費に特別経費、補助金等の大学負担分を加えたインセンティブ経費に改めたほか、学長特別裁量経費等を措置した。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究機能が重要であり、設備の老朽化対応として既存設備の更新等が十分行われているのか。(第1回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二期中期目標期間における設備整備年次計画について、大規模設備（本省概算要求）、中規模設備（学内予算措置）に分けてとりまとめ、計画的な更新が図られるようにした。
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備計画については、学生の視点を取り入れることが重要である。(第4回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会館に保健センターを移設し、学生の就学、生活、就職から保健等にわたる学生支援サービス機能を集中させ、学生の利便性を図った。また、同会館内の学生ラウンジについて、事前に学生のニーズを把握した。 ・昨年度、附属図書館（静岡キャンパス）の改修に際して、計画の段階で学生の意見を取り入れたが、平成23年度に施工する浜松キャンパス附属図書館の改修においても、学生の意見を反映させた。

学外委員からの意見等	対応措置・取組事例等
<p>■国際化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、留学希望の学生が少ないと聞くと、短期留学でも意味があり、大学の個性化を図るために何ができるか検討願いたい。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学フェアを春・秋、静岡と浜松の両キャンパスで開催し、関心ある学生152名が参加した。 ・ネブラスカ大学オマハ校から留学生担当職員等を招き、就業力育成支援事業「海外留学をキャリアに活かそう」として、講演・意見交換会を開催した。
<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流、グローバル化が大事である。静岡大学として国際化を強化し、大学の特徴にしてはどうか。(第4回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際戦略を推進する必要性から、平成23年度から国際交流センター長を教育研究評議会、企画戦略会議の構成員とした。
<p>■管理運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長の所信を実現するための仕組み、リーダーシップを支える体制及び組織改革が必要である。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当理事をサポートするため、学生支援担当副学長、FD・SD 担当学長補佐を設けたほか、教育戦略全般を企画立案、推進する専門の部署として教育企画室を設置した。 ・研究担当理事の下に、研究戦略全般を企画立案、推進する専門の部署として研究企画室を設置した。 ・研究担当理事と社会連携担当理事の間の役割分担と協力関係を明確にし、研究の組織的推進と研究成果の社会への還元を一貫した体制で行うようにした。
<ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金は来年度から一層厳しくなると思われるので、事務再編にあたっては、管理運営経費を削減できる方向で検討することが必要である。(第4回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務組織再編検討WGにおいて、本部事務の合理化・効率化を目指した事務再編案と合わせ、アウトソーシング又は簡素化が可能な業務を洗い出し、報告書にまとめ、実施可能なものから導入することとした。
<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員で優秀な人を常勤職員に採用してはどうか。(第5回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から非常勤職員の常勤職員への登用を行っているが、平成22年度は2名を採用した。
<p>■男女共同参画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点から保育所設置を実現してほしい。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスに向けた労働環境の改善策となる学内保育サービスの創出として、静岡キャンパスに一時預かり保育を行う多目的保育施設を開設したほか、浜松キャンパスにおいては、春休み学童保育を試行した。
<p>■情報発信・広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の情報発信が重要である。(第2回会議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ウェブサイトを全面的にリニューアルし、コンテンツマネジメントシステムを導入したことにより早期に情報発信できる体制を整えたほか、コンテンツを充実させ、様々な対象に情報発信する環境を整えた。